

12月

新着図書

成瀬は都を駆け抜ける

著者名： 宮島 未奈
出版社： 新潮社

成瀬シリーズ堂々完結!! 唯一無二の主人公が、今度は京都を駆け巡る! 膳所高校を卒業し、晴れて京大生となった成瀬あかり。一世一代の恋に破れた同級生、「達磨研究会」なる謎のサークル、簿記YouTuber、娘とともに地元テレビの取材を受ける母、憧れの人に一途に恋焦がれる男子大学生……。千年の都を舞台に、ますます個性豊かな面々が成瀬あかり史に名を刻む中、幼馴染の島崎のもとには成瀬から突然速達が届いて……。全6篇、最高の主人公に訪れる大団円を見届けよ!

女王さまの休日

著者名： 古内一絵
出版社： 中央公論新社

「終わりなんかじゃない。あたしの旅は、まだ始まったばかりだ!」
シャルル、ジャダ、さくらが訪れたのは、台湾。食、物、歴史、そして人との出会いが、新たな気づきとなる――。

さよならジャバウォック

著者名： 伊坂幸太郎
出版社： 双葉社

渾身の書き下ろし長編ミステリー!結婚直後の妊娠と夫の転勤。その頃から夫は別人のように冷たくなった。彼からの暴言にも耐え、息子を育ててきたが、ついに暴力をふるわれた。そして今、自宅マンションの浴室で夫が倒れている。夫は死んだ、死んでいる。私が殺したのだ。もうそろそろ息子の翔が幼稚園から帰ってくるというのに…。途方に暮れていたところ、2週間前に近所ではったり会った大学時代のサークルの後輩・桂凍朗が訪ねてきた。「量子さん、問題が起きていますよね? 中に入れてください」と。

我が息子、慎太郎と裕次郎 その日々

著者名： 石原 光子
出版社： 青志社

※本書は石原慎太郎、裕次郎兄弟の「子育て」について、母・石原光子さんが出版した『おばあちゃんの教育論』を、石原慎太郎さんのご逝去に伴って改題、復刊したものです。

石原慎太郎裕次郎兄弟の人生の素地を作った母、光子と父、潔。二人が手をたずさえて注いだ息子への愛情と信念と情景を、母光子が描いた作品です。昭和を代表する人気作家・政治家と、人気スターの知られざる素顔と、その子育てについて、厳しくも愛情豊かに書かれた本書は、時代を越え普遍性をもっていまも心に届きます。時代が変われど、決して、変わらないものがあるのです。

石原家の兄弟

著者名： 石原 伸晃 他
出版社： 新潮社

父は慎太郎、叔父は裕次郎。華麗なる「昭和の家族」の知られざる日々。「俺はこの宇宙を孤りで過ぎる隕石だ」――作家・政治家として一世を風靡した父と、彼を支え家庭を切り盛りした母・典子。そして家族同然だった裕次郎。強烈な家風で知られる「石原家」の日常は涙と笑いに満ちていた。お正月から大晦日まで、幼少期の出来事から介護、看取り、相続までを兄弟それぞれの視点から振り返る追憶エッセイ。

(新装版) 京都 ものがたりの道

著者名： 彬子女王
出版社： 毎日新聞出版

「京都」という街は、「道」から成る。日本美術研究者として活動する三笠宮家の彬子女王殿下が、京都の通り界隈にまつわる逸話から、神社仏閣の歴史、街歩きでの目のつけどころや楽しみどころ、京都人の気質までを生活者の視点から紹介する。

極彩の岬

著者名： 熊坂俊太郎
出版社： 幻冬舎

白亜の灯台が見た、鮮烈な色彩(ミステリー)
『神奈川県M半島100年史』の執筆を任された20代の社会科教師・クロカリ。太平洋戦争中の史料を漁っていると、米国公文書館のアーカイブでZ 埼灯台を舞台とした奇妙な「映像」を見つける。そこには、目を疑うような戦中の光景が記録されていて――。劇画のストーリーテラーが描く、ミステリーの世界!